

## 〔令和7年度以降入学者用〕

### 「複合工学系プログラム」の目的と概要

#### 1. 複合工学系プログラムが目指す学習・教育到達目標及び技術者像・人材像

本校は、“技術者である前に人間であれ”を教育理念として開校以来人間教育に基づく実践的技術者の育成に努めてきました。

近年、科学技術の高度化、教育の高学歴化、高度情報化社会、産業や経済の国際化、そして地域社会に開かれた学校など、本校を取り巻く社会環境は大きく変化し、時代や環境変化に即応できる技術者の育成が必要になっています。

本技術者教育プログラムは、このような状況を考慮して、本校の伝統である豊かな人間性を育てる教育理念は堅持しつつ、高等専門学校の特長である早期専門導入教育に基づいた工学基礎及び専門基礎教育の系統的で継続的な教育制度を生かし、地域社会や産業界の中だけでなく、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かなより高度の実践的能力を備えた技術者を育成することを目指しています。これらのことは本校の教育理念とともに、育成する人材像、行動目標並びにディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーの三つのポリシーにも包含されており、本技術者教育プログラムとしてもこれらの流れを汲んだ学習・教育到達目標、技術者像・人材像を掲げています。

##### (1) 育成する技術者像・人材像

教育理念「技術者である前に人間であれ」に基づき、豊かな人間性を有し、高度な技術力と創意工夫によって社会の発展に貢献する「今を見つめ未来を創る技術者」の育成を目指す。

##### (2) 複合工学系プログラムの学習・教育到達目標

本技術者教育プログラムは、上で述べたような技術者を育成するため、JABEEの基準を踏まえた以下の具体的な学習・教育到達目標を設定しています。

1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。
2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。
3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。
4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。

#### 2. 複合工学系プログラムの学習・教育到達目標と JABEE の共通基準との対応

本技術者教育プログラムで設定した学習・教育到達目標1～4とJABEEの共通基準(a)～(i)の対応関係は、各教科、科目の授業要目(シラバス)に基づいて下表のように関連付けられています。ここで、表中の◎は基準を主体的に含んでいるという意味です。

##### JABEEの共通基準(基準1.2)

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理)

- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
- (d) 工学（融合複合・新領域）及び関連のエンジニアリング分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を利用して社会の要求を解決するためにデザイン能力
- (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力及び国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
- (g) 自主的、継続的に学習できる能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

学習・教育到達目標とJABEE基準1.2(a)～(i)との対応表

学習・教育到達目標 \ JABEE基準1.2	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
1.		◎	◎						
2.				◎					
3.						◎		◎	◎
4.	◎				◎		◎		

3. 複合工学系プログラムの学習・教育到達目標とプログラム対応科目

本技術者教育プログラムの学習・教育到達目標で定める到達目標を達成するため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〔資料1〕及び学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針〔資料2〕によりカリキュラムを編成しています。

科目の構成及び評価方法・評価基準を「学習・教育到達目標と科目対応表（学習・教育到達目標科目対応表）」（表1）に示しており、同到達目標を達成するために必要な科目の流れを「学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ図」（表2）に示しています。

4. プログラムの履修対象者

本技術者教育プログラムは、本科4、5年及び専攻科1、2年の4年間のカリキュラムで構成されていますので、プログラム履修対象者は4年次に進級した時点で全員が対象者となる可能性を持っています。

しかし、本科5年卒業後に就職する者、また、大学に編入学あるいは別の高等教育機関に進学する者もいますので、最終的な履修者の登録決定は専攻科入学時点で行います。

ただし、本科5年卒業後に就職希望する者も、将来社会人選抜試験で専攻科に入学する場合はプログラム履修者になることとなります。また、大学へ編入学する場合も、編入学先の大学が設定す

る技術者教育プログラムの履修対象者になる可能性が極めて高いので、本科4、5年時でのプログラム履修が必要とされます。

## 5. プログラムの修了要件

本技術者教育プログラムを修了するには、(1)～(4)のすべての要件を満たす必要があります。

- (1) 学士の学位を取得すること。
- (2) 専攻科において62単位以上修得し、専攻科を修了すること。
- (3) 本技術者教育プログラムでの履修科目から124単位以上修得すること。
- (4) 本技術者教育プログラムの学習・教育到達目標で定める4つ全ての到達目標を達成していること。

この4つの学習・教育到達目標を達成するためには、「学習・教育到達目標と科目対応表(学習・教育到達目標対応表)」に示されている目標達成度評価方法及び評価基準を満たすことが必要となります。

なお、学習・教育到達目標の「2」を達成するためには、学位取得申請に必要な条件に準拠した「授業科目区分科目対応表」に示されている条件を満たすことが必要となります。

本校以外の高等専門学校・大学・短期大学、専門学校等から専攻科に入学した学生については、他の教育機関で修得した履修授業科目等を本校4・5学年の履修授業科目へ読み替えるものとします。

読み替えは、JABEE 専門委員会の議を経て本技術者教育プログラムの単位として認定されます。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる能力を身につけるために、高度な自然科学系科目およびリベラルアーツ科目を設け、講義、演習を主とした学修方法により展開する。
2. 応用的な事例や課題の解決において解析的に考え、評価できる能力を身につけるために、より深く高度な専門科目を設け、講義、実験、演習を主とした学修方法により展開する。
3. 社会的倫理観・責任感を持ち、他者とのコミュニケーションにより、工学的プロセスをデザインすることができる能力を身につけるためにエンジニアリングデザイン系科目を設け、講義や演習・実験を展開する。
4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動によって、社会に対して提案できる能力を身につけられるように特別研究や実務研修系科目を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。

## 学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明

学習・教育到達目標	カリキュラム設計方針
<p>1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。</p>	<p>学習・教育到達目標を達成するために次のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の知識・能力を育成するための科目群を配置する。</p> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b></p> <p>準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる能力を身につけるために、高度な自然科学系科目およびリベラルアーツ科目を設け、講義、演習を主とした学修方法により展開する。</p> <p><b>【知識・能力】</b></p> <p>①技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解            本科：英語Ⅳ、文学(リベラル・アーツ)、工学英語(リベラル・アーツ)、歴史学(リベラル・アーツ)、哲学(リベラル・アーツ)、法学(リベラル・アーツ)、経済学(リベラル・アーツ)            専攻科：技術者倫理、産業財産権、経営工学</p> <p>②数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを活用する能力            共通科目として、以下の科目を配置する。            本科：応用数学            専攻科：複素関数論、応用解析学、応用科学</p> <p>さらに、各学科／コースにおいて関連する以下の科目を配置する。            機械工学科／機械工学コース：数値解析、電気工学概論、電子工学概論            電気電子創造工学科／電気電子創造工学コース：熱力学、ロボット工学特論※            物質工学科／物質工学コース：情報処理概論、化学数学※、情報処理※（※：専攻科授業科目）</p>
<p>2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。</p>	<p>学習・教育到達目標を達成するために次のカリキュラム・ポリシーに基づき各学科／コースにおいて以下の科目群を配置する。</p> <p>『「工学（融合複合・新領域）および関連のエンジニアリング分野」において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力』を次の①及び②と定義し、関連する科目群を配置する。</p> <p>①当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力            ②当該分野において必要とされる専門的知識を組み合わせることを含めた応用能力及び当該分野において必要とされるハードウェア・ソフトウェアを利用する能力</p>

	<p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b>      応用的な事例や課題の解決において解析的に考え、評価できる能力を身につけるために、より深く高度な専門科目を設け、講義、実験、演習を主とした学修方法により展開する。</p> <p><b>【知識・能力】</b>      ①当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力      各学科／コースにおいて関連する以下の科目群を配置する(科目の内訳は別紙のとおり)。      機械工学科／機械工学コース：      機械材料・材料力学に関する科目、機械工作・生産工学に関する科目、設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目、流体工学に関する科目、機械力学・制御に関する科目、熱工学に関する科目、機械工学に関する実習科目      電気電子創造工学科／電気電子創造工学コース：      電気電子工学の基礎となる科目、電気工学に関する科目、電子工学に関する科目、情報通信工学に関する科目、電気電子工学に関する実験・実習科目      物質工学科／物質工学コース：      物理化学に関する科目、無機化学に関する科目、有機化学に関する科目、分析化学に関する科目、生物化学に関する科目、化学工学に関する科目、工業化学・化学プロセスに関する科目、生命・生物工学に関する科目、材料化学に関する科目、応用科学に関する実験・実習科目      建築学科／建築学コース：      建築構造に関する科目、建築構法・材料・施工に関する科目、建築環境工学に関する科目、建築計画に関する科目、都市計画に関する科目、建築史・意匠に関する科目、建築設計・製図に関する科目、建築学に関する実験、実習科目</p> <p>②当該分野において必要とされる専門的知識を組み合わせることを含めた応用能力及び当該分野において必要とされるハードウェア・ソフトウェアを利用する能力      本科：プレラボ、卒業研究      専攻科：特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ</p>
<p>3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。</p>	<p>学習・教育到達目標を達成するために次のカリキュラム・ポリシーに基づき以下の知識・能力を育成するための科目群を配置する。</p> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b>      社会的倫理観・責任感を持ち、他者とのコミュニケーションにより、工学的プロセスをデザインすることができる能力を身につけるためにエンジニアリングデザイン系科目を設け、講義や演習・実験を展開する。</p> <p><b>【知識・能力】</b>      ①論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力</p>

	<p>本科：英語Ⅳ、英語表現Ⅲ、実用英語Ⅱ、文学(リベラル・アーツ)、工学英語(リベラル・アーツ)、歴史学(リベラル・アーツ)、哲学(リベラル・アーツ)、法学(リベラル・アーツ)、経済学(リベラル・アーツ)</p> <p>専攻科：応用英語 1、応用英語 2、日本語概説、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ</p> <p>②与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 専攻科：特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ</p> <p>③チームで仕事をするための能力 本科：保健・体育Ⅳ、保健・体育Ⅴ 専攻科：プロジェクトデザイン</p> <p>④工学的プロセスをデザインすることができる能力 専攻科：プロジェクトデザイン</p>
<p>4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。</p>	<p>学習・教育到達目標を達成するために次のカリキュラム・ポリシーに基づき以下の知識・能力を育成するための科目群を配置する。</p> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b></p> <p>生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動によって、社会に対して提案できる能力を身につけられるように特別研究や実務研修系科目を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。</p> <p><b>【知識・能力】</b></p> <p>①地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 本科：環境科学、ライフサイエンス 専攻科：環境技術</p> <p>②種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 専攻科：システムデザイン、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ、実務研修Ⅰ、実務研修Ⅱ～Ⅵ</p> <p>③自主的、継続的に学習する能力 本科：プレラボ、卒業研究 専攻科：特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ</p>

学習・教育到達目標と科目対応表(学習・教育到達目標科目対応表)

学習・教育到達目標	本科・専攻科共通科目				機械工学科／機械工学コース				電気電子創造工学科／電気電子創造工学コース				物資工学科／物質工学コース				建築学科／建築学コース				目標達成度評価方法及び評価基準	
	科目名	必・選	学年	単位	科目名	必・選	学年	単位	科目名	必・選	学年	単位	科目名	必・選	学年	単位	科目名	必・選	学年	単位		
1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラル・アーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。																						
(◎)(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解	英語Ⅳ	必修	4	2																	・必修科目4単位以上及び必修科目の単位を修得することで評価する。	
	文学(リベラル・アーツ)	必修	4.5	2																		
	工学英語(リベラル・アーツ)	必修	4.5	2																		
	歴史学(リベラル・アーツ)	必修	4.5	2																		
	哲学(リベラル・アーツ)	必修	4.5	2																		
	法学(リベラル・アーツ)	必修	4.5	2																		
	経済学(リベラル・アーツ)	必修	4.5	2																		
	技術者倫理	必修	専2	2																		
産業財産権	必修	専2	2																			
経営工学	必修	専1	2																			
(◎)(c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力	応用数学	必修	4	2	数値解析	必修	4	2	熱力学	選択	5	2	情報処理概論	必修	5	2					・必修科目の単位及び選択科目4単位以上の単位を修得することで評価する。	
	複素関数論	選択	専1	2	電気工学概論	必修	4	2	ロボット工学特論	選択	専1	2	化学数学	選択	専1	2						
	応用解析学	選択	専1	2	電子工学概論	選択	5	2					情報処理	必修	専1	2						
	応用科学	選択	専1	2																		
2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。																						
(◎)(d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	プレラボ	必合格	4	2	材料力学Ⅱ	必修	4	2	電気電子演習Ⅴ	必修	4	1	物理化学Ⅱ	必修	4	2	建築構造力学Ⅲ	必修	4	2	・授業科目区分科目対応表に示す条件を満たすことで評価する。	
	特別研究Ⅰ	必修	専1	6	材料力学演習	必修	4	1	電磁気学Ⅱ	必修	4	2	物理化学Ⅲ	必修	4	2	鉄筋コンクリート構造	必修	4	2		
	特別研究Ⅱ	必修	専2	8	塑性力学	選択	専1	2	制御工学Ⅰ	必修	4	2	分子構造論	選択	専1	2	鋼構造	必修	4	2		
					応力解析特論	選択	専1	2	情報演習	必修	4	1	腐食工学	選択	専1	2	構造設計	選択	5	2		
					計算力学	選択	専1	2	電気回路Ⅲ	必修	4	2	高分子化学	必修	4	2	建築応用力学	選択	5	2		
					生産工学	選択	5	2	計測工学	必修	4	2	有機化学Ⅲ	必修	4	2	木構造	必修	5	2		
					生産システム工学	選択	専1	2	システム制御論	選択	専1	2	触媒化学	選択	専1	2	建築構造計画	必修	5	2		
					機械設計法	必修	4	2	電力工学	必修	4	2	有機合成化学	選択	専1	2	鉄筋コンクリート構造論	選択	専1	2		
					トライボロジー	選択	専1	2	電気機器概論	必修	4	2	機器分析	選択	5	2	鋼・合成構造論	選択	専1	2		
					水力学Ⅰ	必修	4	2	高電圧工学	選択	5	2	機器分析特論	選択	専1	2	建築耐震設計論	選択	専1	2		
					水力学Ⅱ	必修	5	2	電気法規と電気施設管理	選択	5	2	生物機能化学	選択	専1	2	建築構造解析学	選択	専1	2		
					流体力学	選択	専1	2	制御工学Ⅱ	選択	5	2	食品化学	選択	専1	2	建築施工	必修	5	2		
					機械力学Ⅰ	必修	4	2	応用制御工学	選択	5	2	化学工学Ⅱ	必修	4	2	建築高機能材料工学	必修	専1	2		
					機械力学Ⅱ	必修	5	2	ロボット工学	選択	5	2	化学工学Ⅲ	必修	4	2	建築環境工学Ⅰ	必修	4	2		
					計測工学	必修	5	2	電離気体力学	選択	専1	2	プロセス工学	選択	5	2	建築環境工学Ⅱ	必修	5	2		
					制御工学	必修	5	2	電気エネルギー論	選択	専1	2	反応工学	選択	専1	2	建築設備	必修	5	2		
					力学特論	選択	専1	2	電子デバイス	必修	4	2	分離工学	選択	専1	2	環境デザイン論	選択	専1	2		
					シーケンス制御	選択	専1	2	電気電子材料	選択	5	2	環境化学	選択	5	2	設備システム論	選択	専1	2		
					現代制御理論	選択	専1	2	材料物性特論	選択	専1	2	生物学Ⅰ	必修	4	2	建築計画Ⅱ	必修	4	2		
					熱力学	必修	4	2	光応用工学論	選択	専1	2	生物学Ⅱ	選択	5	2	建築計画Ⅲ	必修	5	2		
					熱流体演習	必修	4	1	情報理論	選択	5	2	生物学Ⅲ	選択	5	2	建築法規	必修	5	2		
					伝熱工学	必修	5	2	電磁波工学	選択	5	2	生物資源工学	選択	5	2	地域施設計画論	選択	専1	2		
					熱機関	選択	5	2	ネットワーク通信工学	選択	5	2	分子生物学	選択	5	2	パリアフリー・デザイン論	選択	専1	2		
					熱移動論	選択	専1	2	コンピュータアーキテクチャ	選択	5	2	生物素材工学論	選択	専1	2	まちづくり論	選択	専1	2		
					機械工学実験Ⅰ	必合格	4	1	情報システム工学	選択	5	2	環境有機化学	選択	5	2	都市防災論	選択	専1	2		
					機械工学実験Ⅱ	必合格	4	1	計測システム論	選択	専1	2	無機材料	選択	5	2	建築史Ⅰ	必修	4	2		
					機械設計製図Ⅱ	必修	4	2	デジタル通信	選択	専1	2	有機工業化学	選択	5	2	建築史Ⅱ	必修	5	2		
					機械設計製図Ⅲ	必修	5	3	画像情報工学	選択	専1	2	材料工学	選択	5	2	建築意匠	選択	5	2		
					メカトロニクス実験	必修	5	1	高周波工学	選択	専1	2	複合材料	選択	専1	2	文化財保存論	選択	専1	2		
					卒業研究	必合格	5	10	情報セキュリティ論	選択	専1	2	有機材料	選択	専1	2	建築設計ⅡA	必修	4	2		
					機械工学専攻演習	必修	専1	2	創造工学実験Ⅳ	必合格	4	4	化学演習Ⅱ	必修	4	2	建築設計ⅡB	必修	4	2		
					機械工学専攻実験	必修	専1	2	電気電子創造実験	必合格	5	2	材料化学実験	必合格	4	4	地域設計Ⅰ	選択	専1	2		
					機械工学ゼミナール	必修	専1	2	卒業研究	必合格	5	10	生物学実験	必合格	4	4	地域設計Ⅱ	選択	専2	2		
								電気電子創造工学専攻実験	選択	専1	2	卒業研究	必合格	5	10	建築CAD・CG	選択	専2	2			
								電気電子創造工学演習Ⅰ	選択	専1	1	物質工学専攻実験	必修	専1	2	創造演習ⅣA	必修	4	2			
								電気電子創造工学演習Ⅱ	選択	専1	1	物質工学ゼミナールⅠ	必修	専1	2	創造演習ⅣB	必修	4	2			
												物質工学ゼミナールⅡ	選択	専2	1	卒業研究	必合格	5	10			



表1-1

○専攻に係る授業科目の区分と科目対応表(授業科目区分科目対応表)

機械工学科/機械工学コース

当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力(授業科目の区分)及び対応する科目、並びに修得すべき単位数等は次のとおりとする。

1)「授業科目の区分」は、大学改革支援・学位授与機構が示す「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」における「専攻に係る授業科目の区分」とする。

2)各授業科目の区分に対応する科目の割振りは、原則として学位授与機構から認定を受けている認定科目表の科目の割振りを基本とする。

3)以下の修得すべき単位数等を満たすとともに、講義・演習科目及び実験・実習科目全体で40単位以上修得すること。

授業科目の区分		授業科目名	必・選	単位数	履修年次	修得すべき単位数等		
講義・演習科目	機械材料・材料力学に関する科目	材料力学演習	必履修	1	本4	30単位以上修得すること	講義・演習科目の授業科目の区分のうちから4区分以上にわたること	講義・演習科目及び実験・実習科目全体で40単位以上修得すること
		材料力学Ⅱ	必履修	2	本4			
		塑性力学	選択	2	専1			
		応力解析特論	選択	2	専1			
		計算力学	選択	2	専1			
	機械工作・生産工学に関する科目	生産工学	選択	2	本5			
		生産システム工学	選択	2	専1			
	設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目	機械設計法	必履修	2	本4			
		トライボロジー	選択	2	専1			
	流体工学に関する科目	水力学Ⅰ	必履修	2	本4			
		水力学Ⅱ	必履修	2	本5			
		流体力学	選択	2	専1			
	機械力学・制御に関する科目	機械力学Ⅰ	必履修	2	本4			
		機械力学Ⅱ	必履修	2	本5			
		計測工学	必履修	2	本5			
		制御工学	必履修	2	本5			
		力学特論	選択	2	専1			
		シーケンス制御	選択	2	専1			
		現代制御理論	選択	2	専1			
	熱工学に関する科目	熱力学	必履修	2	本4			
熱流体演習		必履修	1	本4				
伝熱工学		必履修	2	本5				
熱機関		選択	2	本5				
熱移動論		選択	2	専1				
実験・実習科目	機械工学に関する実験・実習科目	ブレラボ	必合格	2	本4	6単位以上修得すること		
		機械工学実験Ⅰ	必合格	1	本4			
		機械工学実験Ⅱ	必合格	1	本4			
		機械設計製図Ⅱ	必履修	2	本4			
		機械設計製図Ⅲ	必履修	3	本5			
		メカトロニクス実験	必履修	1	本5			
		卒業研究	必合格	10	本5			
		機械工学専攻演習	必修	2	専1			
		機械工学専攻実験	必修	2	専1			
		機械工学ゼミナール	必修	2	専1			
		特別研究Ⅰ	必修	6	専1			
		特別研究Ⅱ	必修	8	専2			

表1-2

○専攻に係る授業科目の区分と科目対応表(授業科目区分科目対応表)

電気電子創造工学科／電気電子創造工学コース

当該分野において必要とされる専門的知識とそれらに応用する能力(授業科目の区分)及び対応する科目、並びに修得すべき単位数等は次のとおりとする。

1)「授業科目の区分」は、大学改革支援・学位授与機構が示す「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」における「専攻に係る授業科目の区分」とする。

2)各授業科目の区分に対応する科目の割振りは、原則として学位授与機構から認定を受けている認定科目表の科目の割振りを基本とする。

3)以下の修得すべき単位数等を満たすとともに、講義・演習科目及び実験・実習科目全体で40単位以上修得すること。

授業科目の区分		授業科目名	必・選	単位数	履修年次	修得すべき単位数等				
講義・演習科目	電気電子工学の基礎となる科目	電気電子演習Ⅴ	必修	1	本4	4単位以上修得すること	30単位以上修得すること	講義・演習科目及び実験・実習科目全体で40単位以上修得すること		
		電磁気学Ⅱ	必修	2	本4					
		制御工学Ⅰ	必修	2	本4					
		情報演習	必修	1	本4					
		電気回路Ⅲ	必修	2	本4					
		計測工学	必修	2	本4					
		システム制御論	選択	2	専1					
	電気工学に関する科目	電気機器概論	必修	2	本4					
		電力工学	必修	2	本4					
		高電圧工学	選択	2	本5					
		電気法規と電気施設管理	選択	2	本5					
		制御工学Ⅱ	選択	2	本5					
		応用制御工学	選択	2	本5					
		ロボット工学	選択	2	本5					
		電離気体力学	選択	2	専1					
		電気エネルギー論	選択	2	専1					
	電子工学に関する科目	電子デバイス	必修	2	本4					
		電気電子材料	選択	2	本5					
		材料物性特論	選択	2	専1					
		光応用工学論	選択	2	専1					
	情報通信工学に関する科目	情報理論	選択	2	本5					
		電磁波工学	選択	2	本5					
		ネットワーク通信工学	選択	2	本5					
		コンピュータアーキテクチャ	選択	2	本5					
		情報システム工学	選択	2	本5					
		計測システム論	選択	2	専1					
		デジタル通信	選択	2	専1					
		画像情報工学	選択	2	専1					
		高周波工学	選択	2	専1					
	情報セキュリティ論	選択	2	専1						
	電気電子工学に関する実験・実習科目	ブレラボ	必合格	2	本4	6単位以上修得すること				
		創造工学実験Ⅳ	必合格	4	本4					
		電気電子創造実験	必合格	2	本5					
卒業研究		必合格	10	本5						
電気電子創造工学専攻実験		選択	2	専1						
電気電子創造工学演習Ⅰ		選択	1	専1						
電気電子創造工学演習Ⅱ		選択	1	専1						
特別研究Ⅰ		必修	6	専1						
特別研究Ⅱ	必修	8	専2							

表1-3

○専攻に係る授業科目の区分と科目対応表(授業科目区分科目対応表)

物質工学科/物質工学コース

当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力(授業科目の区分)及び対応する科目、並びに修得すべき単位数等は次のとおりとする。

1)「授業科目の区分」は、大学改革支援・学位授与機構が示す「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」における「専攻に係る授業科目の区分」とする。

2)各授業科目の区分に対応する科目の割振りは、原則として学位授与機構から認定を受けている認定科目表の科目の割振りを基本とする。

3)以下の修得すべき単位数等を満たすとともに、講義・演習科目及び実験・実習科目全体で40単位以上修得すること。

授業科目の区分	授業科目名	必・選	単位数	履修年次	修得すべき単位数等		
講義・演習科目①	物理化学に関する科目	物理化学Ⅱ	必修	2	本4	20単位以上修得すること	講義・演習科目①の授業科目の区分のうちから4区分以上にわたること
		物理化学Ⅲ	必修	2	本4		
		分子構造論	選択	2	専1		
	無機化学に関する科目	腐食工学	選択	2	専1		
		有機化学に関する科目	高分子化学	必修	2		
	有機化学Ⅲ		必修	2	本4		
	触媒化学		選択	2	専1		
	有機合成化学		選択	2	専1		
	分析化学に関する科目	機器分析	選択	2	本5		
		機器分析特論	選択	2	専1		
	生物化学に関する科目	生物機能化学	選択	2	専1		
		食品化学	選択	2	専1		
	化学工学に関する科目	化学工学Ⅱ	必修	2	本4		
		化学工学Ⅲ	必修	2	本4		
		プロセス工学	選択	2	本5		
反応工学		選択	2	専1			
分離工学		選択	2	専1			
講義・演習科目②	工業化学・化学プロセスに関する科目	環境化学	選択	2	本5	10単位以上修得すること	講義・演習科目及び実験・実習科目全体で40単位以上修得すること
	生命・生物工学に関する科目	生物工学Ⅰ	必修	2	本4		
		生物工学Ⅱ	選択	2	本5		
		生物工学Ⅲ	選択	2	本5		
		生物資源工学	選択	2	本5		
		分子生物学	選択	2	本5		
		生物素材工学論	選択	2	専1		
	材料化学に関する科目	環境有機化学	選択	2	本5		
		無機材料	選択	2	本5		
		有機工業化学	選択	2	本5		
		材料工学	選択	2	本5		
		複合材料	選択	2	専1		
有機材料		選択	2	専1			
実験・実習科目	応用化学に関する実験・実習科目	化学演習Ⅱ	必修	2	本4	6単位以上修得すること	
		材料化学実験	必合格	4	本4		
		生物工学実験	必合格	4	本4		
		プレラボ	必合格	2	本4		
		卒業研究	必合格	10	本5		
		物質工学専攻実験	必修	2	専1		
		物質工学ゼミナールⅠ	必修	2	専1		
		物質工学ゼミナールⅡ	選択	1	専2		
		特別研究Ⅰ	必修	6	専1		
特別研究Ⅱ	必修	8	専2				

表1-4

○専攻に係る授業科目の区分と科目対応表(授業科目区分科目対応表)

建築学科/建築学コース

当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力(授業科目の区分)及び対応する科目、並びに修得すべき単位数等は次のとおりとする。

1)「授業科目の区分」は、大学改革支援・学位授与機構が示す「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」における「専攻に係る授業科目の区分」とする。

2)各授業科目の区分に対応する科目の割振りは、原則として学位授与機構から認定を受けている認定科目表の科目の割振りを基本とする。

3)以下の修得すべき単位数等を満たすとともに、講義・演習科目及び実験・実習科目全体で48単位以上修得すること。

授業科目の区分		授業科目名	必・選	単位数	履修年次	修得すべき単位数等		
講義・演習科目	建築構造に関する科目	建築構造力学Ⅲ	必履修	2	本4	8単位以上修得すること	30単位以上修得すること	講義・演習科目及び実験・実習科目全体で48単位以上修得すること
		鉄筋コンクリート構造	必修	2	本4			
		鋼構造	必履修	2	本4			
		構造設計	選択	2	本5			
		木構造	必履修	2	本5			
		建築構造計画	必履修	2	本5			
		建築応用力学	選択	2	本5			
		鉄筋コンクリート構造論	選択	2	専1			
		鋼・合成構造論	選択	2	専1			
		建築耐震設計論	選択	2	専1			
		建築構造解析学	選択	2	専1			
	建築構法・材料・施工に関する科目	建築施工	必修	2	本5	4単位以上修得すること		
		建築高機能材料工学	必修	2	専1			
	建築環境工学に関する科目	建築環境工学Ⅰ	必修	2	本4	2単位以上修得すること		
		建築環境工学Ⅱ	必履修	2	本5			
		建築設備	必修	2	本5			
		環境デザイン論	選択	2	専1			
		設備システム論	選択	2	専1			
	建築計画に関する科目	建築計画Ⅱ	必修	2	本4	4単位以上修得すること		
		建築計画Ⅲ	必履修	2	本5			
		建築法規	必修	2	本5			
		地域施設計画論	選択	2	専1			
		バリアフリー・デザイン論	選択	2	専1			
	都市計画に関する科目	まちづくり論	選択	2	専1			
		都市防災論	選択	2	専1			
	建築史・意匠に関する科目	建築史Ⅰ	必履修	2	本4			
		建築史Ⅱ	必履修	2	本5			
建築意匠		選択	2	本5				
文化財保存論		選択	2	専1				
実験・実習科目	建築設計・製図に関する科目	建築設計ⅡA	必履修	2	本4	10単位以上修得すること		
		建築設計ⅡB	必履修	2	本4			
		地域設計Ⅰ	選択	2	専1			
		地域設計Ⅱ	選択	2	専2			
		建築CAD・CG	選択	2	専2			
	建築学に関する実験・実習科目	創造演習ⅣA	必修	2	本4			
		創造演習ⅣB	必履修	2	本4			
		プレラボ	必合格	2	本4			
		卒業研究	必合格	10	本5			
		特別研究Ⅰ	必修	6	専1			
		特別研究Ⅱ	必修	8	専2			

表2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ〔複合工学専攻（機械工学コース）令和7年度入学生用〕

学習・教育到達目標	知識・能力観点	授業科目名							
		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。	(b)	英語Ⅳ(◎) 文学(リベラル・アーツ)(◎) 工学英語(リベラル・アーツ)(◎) 歴史学(リベラル・アーツ)(◎) 哲学(リベラル・アーツ)(◎) 法学(リベラル・アーツ)(◎)	経済学(リベラル・アーツ)(◎)	文学(リベラル・アーツ)(◎) 工学英語(リベラル・アーツ)(◎) 歴史学(リベラル・アーツ)(◎) 哲学(リベラル・アーツ)(◎) 法学(リベラル・アーツ)(◎)	経済学(リベラル・アーツ)(◎)	経営工学(◎)	技術者倫理(◎)	産業財産権(◎)	
	(c)	電気工学概論(◎)	応用数学(◎) 数値解析(◎)	電子工学概論(◎)	複素関数論(◎)	応用解析学(◎) 応用科学(◎)			
2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。	(d)	□機械材料・材料力学に関する科目 材料力学Ⅱ(◎) → 材料力学演習(◎)			塑性力学(◎) 応力解析特論(◎) 計算力学(◎)				
	□機械工作・生産工学に関する科目		生産工学(◎)		生産システム工学(◎)				
	□設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目	機械設計法(◎)				トライボロジー(◎)			
	□流体工学に関する科目	水力学Ⅰ(◎)		水力学Ⅱ(◎)		流体力学(◎)			
	□機械力学・制御に関する科目	機械力学Ⅰ(◎)		機械力学Ⅱ(◎)	計測工学(◎) 制御工学(◎)	シーケンス制御(◎) 現代制御理論(◎)	力学特論(◎)		
	□熱工学に関する科目	熱力学(◎) → 熱流体演習(◎)		熱機関(◎) 伝熱工学(◎)		熱移動論(◎)			
	□機械工学に関する実験・実習科目	プレラボ(◎) 機械工学実験Ⅰ(◎) → 機械工学実験Ⅱ(◎) 機械設計製図Ⅱ(◎)		卒業研究(◎) メカトロニクス実験(◎) 機械設計製図Ⅲ(◎)		特別研究Ⅰ(◎) 機械工学ゼミナール(◎) 機械工学専攻演習(◎) 機械工学専攻実験(◎)	特別研究Ⅱ(◎)		
3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。	(f)	英語Ⅳ(◎) 英語表現Ⅲ(◎) 工学英語(リベラル・アーツ)(◎) 文学(リベラル・アーツ)(◎) 歴史学(リベラル・アーツ)(◎) 哲学(リベラル・アーツ)(◎) 法学(リベラル・アーツ)(◎)		実用英語Ⅱ(◎) 工学英語(リベラル・アーツ)(◎) 文学(リベラル・アーツ)(◎) 歴史学(リベラル・アーツ)(◎) 哲学(リベラル・アーツ)(◎) 法学(リベラル・アーツ)(◎)		応用英語Ⅰ(◎) 日本語概説(◎)	応用英語Ⅱ(◎)		
	(h)					特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)		
	(i)		保健・体育Ⅳ(◎)	保健・体育Ⅴ(◎)			プロジェクトデザイン(◎)		
4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。	(a)			環境科学(◎) → ライフサイエンス(◎)	環境技術(◎)	エネルギー工学(◎)			
	(e)			卒業研究(◎)	システムデザイン(◎) 特別研究Ⅰ(◎) 実務研修Ⅰ(◎) 実務研修Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ(◎)		特別研究Ⅱ(◎)		
	(g)	プレラボ(◎)		卒業研究(◎)	特別研究Ⅰ(◎)		特別研究Ⅱ(◎)		

※表中の( )内の記号 ◎:対応する学習・教育到達目標の達成に特に重要な位置付けにあるもの ○:対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置付けにあるもの



表2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ〔複合工学専攻（物質工学コース）令和7年度入学生用〕

学習・教育到達目標	知識・能力観点	授 業 科 目 名													
		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年							
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。	(b)	英語Ⅳ(◎)		文学(リベラル・アーツ)(◎)											
		文学(リベラル・アーツ)(◎)		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)									
(c)	歴史学(リベラル・アーツ)(◎)		歴史学(リベラル・アーツ)(◎)												
	哲学(リベラル・アーツ)(◎)		哲学(リベラル・アーツ)(◎)									技術者倫理(◎)			
		法学(リベラル・アーツ)(◎)		法学(リベラル・アーツ)(◎)									産業財産権(◎)		
			経済学(リベラル・アーツ)(◎)		経済学(リベラル・アーツ)(◎)		経営工学(◎)								
			応用数学(◎)				複素関数論(◎)		応用解析学(◎)						
			数値解析(◎)				化学数学(◎)		応用科学(◎)						
					情報処理概論(◎)		情報処理(◎)								
2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。	(d)	□物理化学に関する科目													
		物理化学Ⅱ(◎)	物理化学Ⅲ(◎)			分子構造論(◎)									
		□無機化学に関する科目						腐食工学(◎)							
		□有機化学に関する科目								有機合成化学(◎)					
		高分子化学(◎)								触媒化学(◎)					
		有機化学Ⅲ(◎)													
		□分析化学に関する科目				機器分析(◎)					機器分析特論(◎)				
		□生物化学に関する科目								生物機能化学(◎)		食品化学(◎)			
		□化学工学に関する科目		化学工学Ⅱ(◎)	化学工学Ⅲ(◎)	プロセス工学(◎)		反応工学(◎)				分離工学(◎)			
		□工業化学・化学プロセスに関する科目					環境化学(◎)								
		□生命・生物工学に関する科目		生物工学Ⅰ(◎)		生物工学Ⅲ(◎)	生物工学Ⅱ(◎)								
							分子生物学(◎)								
							生物資源工学(◎)		生物素材工学論(◎)						
□材料化学に関する科目				環境有機化学(◎)	有機工業化学(◎)	複合材料(◎)	有機材料(◎)								
				無機材料(◎)	材料工学(◎)										
□応用化学に関する実験・実習科目		プレラボ(◎)		卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)								
		化学演習Ⅱ(◎)				物質工学ゼミナールⅠ(◎)	物質工学ゼミナールⅡ(◎)								
		材料化学実験(◎)				物質工学専攻実験(◎)									
		生物工学実験(◎)													
3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることのできる、工学的プロセスをデザインすることができる。	(f)	英語Ⅳ(◎)		実用英語Ⅱ(◎)		応用英語Ⅰ(◎)	応用英語Ⅱ(◎)								
		英語表現Ⅲ(◎)													
		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)											
		文学(リベラル・アーツ)(◎)		文学(リベラル・アーツ)(◎)		日本語概説(◎)									
歴史学(リベラル・アーツ)(◎)		歴史学(リベラル・アーツ)(◎)													
哲学(リベラル・アーツ)(◎)		哲学(リベラル・アーツ)(◎)													
法学(リベラル・アーツ)(◎)		法学(リベラル・アーツ)(◎)													
			経済学(リベラル・アーツ)(◎)		経済学(リベラル・アーツ)(◎)										
						特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)								
						特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)								
			保健・体育Ⅳ(◎)	保健・体育Ⅴ(◎)			プロジェクトデザイン(◎)								
4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。	(a)			環境科学(◎)	ライフサイエンス(◎)	環境技術(◎)									
						システムデザイン(◎)									
						卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)						
						実務研修Ⅰ(◎)									
						実務研修Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ(◎)									
			プレラボ(◎)	卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)								

※表中の( )内の記号 ◎:対応する学習・教育到達目標の達成に特に重要な位置付けにあるもの ○:対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置付けにあるもの

表2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ〔複合工学専攻(建築学コース)令和7年度入学生用〕

学習・教育到達目標	知識・能力観点	授業科目名												
		本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
1. 準学士課程において培った知識に基づき、より深く高度な自然科学系およびリベラルアーツに関する知識について説明することができ、論理的に結論を導くことができる。	(b)	英語Ⅳ(◎)		文学(リベラル・アーツ)(◎)										
		文学(リベラル・アーツ)(◎)		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)								
(c)		歴史学(リベラル・アーツ)(◎)		歴史学(リベラル・アーツ)(◎)										
	哲学(リベラル・アーツ)(◎)		哲学(リベラル・アーツ)(◎)								技術者倫理(◎)			
		法学(リベラル・アーツ)(◎)		法学(リベラル・アーツ)(◎)									産業財産権(◎)	
			経済学(リベラル・アーツ)(◎)		経済学(リベラル・アーツ)(◎)		経営工学(◎)							
			応用数学(◎)				複素関数論(◎)		応用解析学(◎)					
									応用科学(◎)					
2. 準学士課程において培った工学、技術の知識に基づき、より深く高度な工学、技術の専門知識を身に付け、応用的な事例や課題に深く高度な専門知識を用いることができ、専門分野において解析的に考察し評価することができる。	(d)	□建築構造に関する科目												
		建築構造力学Ⅲ(◎)	鋼構造(◎)		木構造(◎)		建築耐震設計論(◎)							
		鉄筋コンクリート構造(◎)		構造設計(◎)	建築構造計画(◎)	鉄筋コンクリート構造論(◎)	鋼・合成構造論(◎)							
				建築応用力学(◎)			建築構造解析学(◎)							
		□建築構法・材料・施工に関する科目			建築施工(◎)		建築高機能材料工学(◎)							
		□建築環境工学に関する科目			建築環境工学Ⅱ(◎)	建築設備(◎)	環境デザイン論(◎)							
							設備システム論(◎)							
		□建築計画に関する科目			建築法規(◎)			バリアフリー・デザイン論(◎)						
		建築計画Ⅱ(◎)		建築計画Ⅲ(◎)			地域施設計画論(◎)							
		□都市計画に関する科目					都市防災論(◎)							
					まちづくり論(◎)									
□建築史・意匠に関する科目		建築史Ⅰ	建築史Ⅱ(◎)		文化財保存論(◎)									
			建築意匠(◎)											
□建築設計・製図に関する科目		建築設計ⅡA(◎)	建築設計ⅡB(◎)			地域設計Ⅰ(◎)	地域設計Ⅱ(◎)							
							建築CAD・CG(◎)							
□建築学に関する実験・実習科目		プレラボ(◎)	卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)		特別研究Ⅱ(◎)							
		建築演習ⅣA(◎)	創造演習ⅣB(◎)											
3. 人間・文化・社会を理解し、倫理観・責任感を持ち、自分の意見を論理的に表現できるとともに他者の意見を的確に理解し、周囲の人々と尊重しあいながらコミュニケーションを取ることで、工学的プロセスをデザインすることができる。	(f)	英語Ⅳ(◎)		実用英語Ⅱ(◎)		応用英語Ⅰ(◎)	応用英語Ⅱ(◎)							
		英語表現Ⅲ(◎)												
		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)		工学英語(リベラル・アーツ)(◎)										
		文学(リベラル・アーツ)(◎)		文学(リベラル・アーツ)(◎)		日本語概説(◎)								
		歴史学(リベラル・アーツ)(◎)		歴史学(リベラル・アーツ)(◎)										
哲学(リベラル・アーツ)(◎)		哲学(リベラル・アーツ)(◎)												
		法学(リベラル・アーツ)(◎)		法学(リベラル・アーツ)(◎)										
			経済学(リベラル・アーツ)(◎)		経済学(リベラル・アーツ)(◎)									
						特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)							
						特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)							
			保健・体育Ⅳ(◎)	保健・体育Ⅴ(◎)			プロジェクトデザイン(◎)							
4. 生涯にわたって新たな知識・技術を自ら学ぶ自発的学習ができ、知識・技術を新たな社会へつなぐための創造的活動により、社会に対して提案ができる。	(a)			環境科学(◎)	ライフサイエンス(◎)	環境技術(◎)								
						システムデザイン(◎)								
						卒業研究(◎)	特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)						
						実務研修Ⅰ(◎)								
						実務研修Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ(◎)								
			プレラボ(◎)	卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)	特別研究Ⅱ(◎)							

※表中の( )内の記号 ◎:対応する学習・教育到達目標の達成に特に重要な位置付けにあるもの ○:対応する学習・教育到達目標の達成に重要な位置付けにあるもの